

# がんばろう 南三陸町 復興第83号

# 南三陸マイタウン月刊情報

発行所  
千葉総合印刷株式会社  
本吉郡南三陸町志津川字沼田 150-84  
TEL(46) 3069 FAX(46)3068  
企画・編集  
志津川広報センター

## 南三陸町の中世を学ぶ



講師 田中則和先生を迎え

「南三陸の山城と石塔」を刊行された、中世考古学者の田中則和氏(前宮城県考古学会会長)を迎え、全8回にわたる連続講座が開催されている。

第1回(2/15)「南三陸の山城と石塔」一研究者による最新の見解と題され開催された。第3回(4/19)女川・雄勝編の会場はマチドマに於いて、約30名が視聴した。第5回(6/21)志津川編は、生涯学習センターを会場に約60名を超える町民の皆様が、新井田館の発掘された跡地に整備された中央団地の場所で、戦国に生れた人々の歴史ロマンに想いを馳せた。

志津川地区の板碑と朝日館は平安時代のかまどや土器が発掘され、たて穴住居も見つかり、近くには「おだまや遺跡」の石塔がある。土壌は砂っぽく600年に1回の津波があった跡が残り、現在大津波が「千年に一度」と言われる事につながる。

細浦館は、海の方を向いて建っていた。その場所は細浦「徳性寺」であり、門の脇には板碑があり、その板碑には「お釈迦様が修行した」と書いてあると話す。

大雄寺の板碑は2枚あり、「千人仏の板碑」が近くの信倉地区で発見されている。1363年2月江戸時代に仙台藩が志津川村で、金堀りの人々

が事故で数百人亡くなり、千人塚として建立した。

新井田館遺跡は、東日本大震災の高台移転の場所として、遺跡の調査が2015年に始まり、7月には山城跡が削られる直前に陶器、石鉢、古銭、柱穴が発掘され、調査終了後の11月23日に町内外から318名の方々が跡地を訪れ熱心に説明を聞いた。

調査の結果、平場6カ所、堀6条、土塁8条が見つかり、山城には8m幅で、深さ3mの堀があり敵から城を守った。15世紀前半ごろに築城され、17世紀には既に使われていなかった。

戦国期に朝日館の城主は本吉四郎高衡の家来志津見五郎の城と伝わっている。東北地方の要と思われる。新井田館の大きさを比べても、朝日館は約20倍も大きい。

主催は南三陸研究会 / みなと工舎で、予定する全8回に参加された方には「修了証」を贈呈する。今後第7回は8月16日の「歌津編」、第8回は9月20日で「南三陸の歴史と文化遺産」について、生涯学習センター(中央団地向かい)において、田中先生の貴重な講話を予定している。

**南三陸町の高齢化率**  
南三陸町は35.6%県内35市町12番目の高さ  
気仙沼市は37.4%7番目の高さ

**宮城みちのく巡礼33カ所**  
4番札所に細浦徳性寺



安女宝山徳性寺住職辻文生さんから、大震災からの寺の復興、現在の話しを聞いた。

多くの先祖から引き継いだ品々の流出の中で、偶然にも貴重な徳性寺の歴史を伝える町の文化財的な仏具が残ったと

話す。

徳性寺の本堂・庫裡も高台にあったが、16mにも達する細浦地区への津波の襲来で、本堂は崩壊し庫裡は2階まで浸水したが、修復し檀家の仏事に当たっている。

山門は倒壊を免れ、4基の板碑と教育委員会の「細浦板碑群」の説明看板は残っている。

震災後は、墓地の入口に観音像を建立し、動物の慰霊碑も整備した。また、被災地の寺を巡る「巡礼」で、亡くなられた皆さんの供養も計画している。本堂は高台の墓地脇の仮本堂で、葬儀・回忌法要をおこない檀家の供養にあたっている。今後は本堂の再建を目指し、取り組んでいると語る。



## 細浦板碑群

板碑は中世の供養碑です。志津川ではこれまで約280基の板碑が発見されており、鎌倉時代の弘安六年(1283)から室町時代の宝徳三年(1451)までの年号が読み取れますが、南朝の年号や戦国時代に入ってから板碑は確認されていません。

細浦の徳性寺には10基の板碑がみられ、年号の刻まれているものが8基(1303~1383)、うち4基は鎌倉時代のものです。鎌倉時代の年号を刻んだ板碑は志津川では6基しか発見されておらず、うち4基が細浦にあることを考えると、ここがかなり古くから開けた集落であったことがわかります。

志津川の中世を語る文献史料はほとんど残されていないため、板碑の存在は当時の歴史を知るうえで貴重な手懸かりとなります。今後とも大切に残していきましょう。

平成15年3月 志津川町教育委員会

## 未来への教訓

復興! 大津波の記憶を風化させない

平成31年(2019年)

3月の出来事

~ 地元報道より ~

### 南三陸町

◆南三陸は27日、2019年度一般会計当初予算案を331億4千万円で前年度と比べて0.4%増と公表した。予算規模は前年並み。

◆第55回全国児童才能開発コンテストの作文部門で南三陸町立志津川小学校5年の山口和花さんが、全国連合小学校長会会長賞の上位賞に選ばれた。作文部門への応募は1万5129点で山口さんは「みんなの心に」と題した作品を応募した。作文部門は、志津川小4年の菅原萌香さんが財団奨励賞を受賞した。

◆南三陸町志津川新井田地区内に町生涯学習センターが、完成した。町内の公共施設のうち、建物としては最後の災害復旧事業で、開館は4月25日を予定している。

◆「南三陸モアイ化計画」に取り組んでいる志津川高校の生徒が28日、グッズ販売で得た50万円を町に寄付した。町は4月に開館する生涯学習センターの図書購入に充てる。

◆4日南三陸町は、東京電力福島第一原発事故で汚染され町内に保管されている牧草を、保管農家の所有地にすき込む方法で処理を検討していることを、明らかにした。町有地での処理は適地が見つからず断念する方針。

◆南三陸町入谷のひこころの里で、まゆ玉を使った作品を展示する「シルクフラワーフェスタ」が2日~10日まで行われた。入谷ふるさと振興会が主催したもので、期間中はまゆ細工や機織り体験なども行われた。

◆南三陸さんさん商店街で、オープンから丸2年を祝うイベントが3日開かれた。マグロの解体ショーやビンゴ大会、カキ汁の無料提供などがあり町内外から多くの人々が訪れた。

◆南三陸町議会3月定例会が、5日開会した。初日は3氏が一般質問を行なった。

◆埼玉県さいたま市のコミュニティーサークルが2・3日、南三陸町の住民を元気づけようと、くつ下を使った手作りぬいぐるみを復興住宅の住民らに届けた。「くつしたモンキープロジェクト」として南三陸町を毎年訪れ、住民らにぬいぐるみをプレゼントしている。

◆南三陸町教育委員会の佐藤達朗教育長(70)が、3月末で退任することが分かった。後任に現在町立志津川小学校校長を務めている、齊藤明氏(59)を充てる方針を固め、町議会3月定例会に人事案件を上程する。

◆南三陸町議会3月定例会は8日、町が計画している家庭ごみの有料化の条例改正案を、賛成多数で可決した。

◆南三陸町の震災復興祈念公園は2016年度末に着工し、現在盛土工事が進められており、一部は今年12月の開園を目指す。

◆11日南三陸町歌津田の浦地区で「キャンドルナイト2019」が行なわれた。キャンドルには手書きのメッセージが添えられ、地震が発生した午後2時46分には参加者が灯りをともし、海に向かって黙とうをささげた。

◆「春つげわかめまつり」が南三陸町の南三陸ハマーレ歌津で10日開かれた。生ワカメ・生メカブの詰め放題も行われ、詰め放題のワカメは歌津産ワカメ1千トンが用意された。

◆南三陸町では東日本大震災から8年を迎えた11日、大震災が発生した午後2時46分に合わせて犠牲者に黙祷をささげ、冥福を祈った。追悼式は、ベイサイドアリーナで行われ、遺族ら約500人が参列した。

◆神戸市長田区にある大正筋商店街の店主やボランティアら12人が10日、南三陸さんさん商店街で長田名物の「そばめし」を振る舞った。南三陸特産のミズダコを加えた、そばめし約200人分を無料で配り喜ばれた。

◆南三陸町歌津大沼地内で10日午後1時10分ごろ、平屋建ての物置5棟が全焼する火事があった。道路を挟んだ向かいの山林にも飛び火したが、大きな被害はなかった。

◆東日本大震災を引き起こした東北地方太平洋沖地震によって68センチ沈下した南三陸町志津川では、8年間で47センチが戻った。東南東方向に4.5メートルずれた水平変動は、8年間で5.8メートルずれたことになる。

◆南三陸町高齢者芸能発表会が13日、ベイサイドアリーナで開かれた。踊りなど日頃の練習の成果を披露した。

◆2019年度一般会計当初予算に盛り込んだ町税の額が、過去最高になった。住宅再建や事業所再建に伴い年々上昇し、19年度も復興の影響が継続し、町税の増加を見込んでいる。

◆南三陸町が志津川市街地で進めている土地区画整理事業の進捗率が、90%を超えた。4割の宅地の利活用が見通しが立っていない。